

■成富兵庫(茂安)
なりとみひょうご
桶狭間の戦・1560＝

先に見える部将として知られたが、江戸幕府が始まるや、多数の治水工事で佐賀藩を豊かにし“神様”に。

肥前国佐嘉郡新庄郷益田で、漢の高祖一族を祖先とし、後漢末に乱を逃れて肥前に流れ、竜造寺隆信に仕える成富信種の次男に生まれる。母は安住家能の娘。

大村純忠受洗1563＝ 3歳：隆信が、島原半島に攻め入り占領し、

腕白で悪行も多いながら、豪胆で、7人の男子中“力量第一”と、早くから望みをかけられて育ち、

織田信長入京1568＝ 8歳：翌年にかけての、大友宗麟との攻防戦などに、父が大いに軍功をあげる間、
京都宣教許可1569＝ 9歳：初めて、敵陣の物見(偵察)を行い、
石山合戦始・1570＝10歳：隆信に召され、小姓として殿中で仕え、元服すると隆信より一字を賜り、信安と名乗る。

室町幕府滅亡1573＝13歳：隆信が、近隣の諸城を降して、筑後に入るなど飛躍、

安土城築城・1576＝16歳：隆信が、父が普請した須古城を拠点とする間、藤津横造城攻めに先鋒として初陣、戦功を上げ、
安土楽市楽座1577＝17歳：隆信の大村城攻めから、
上杉謙信没・1578＝18歳：島原攻めで、肥前一国を平定するまで、鍋島直茂に従って、各地に転戦して戦功を挙げ、
以後、鍋島直茂に仕え、
石山合戦終・1580＝20歳：筑後生駒城攻めでの活躍で、賢種と名乗られ、馬廻旗奉行に抜擢されるが、
驕慢な隆信は、領国内の不穏の気配に、直茂とともに、諫言するも耳をかさず、ともに遠ざけられ、
本能寺の変・1582＝22歳：直茂の使いとして大坂城に赴き、豊臣秀吉に南蛮帽子を献上、

長久手の戦・1584＝24歳：隆信は、無謀な島原攻めで敗死、父は隠居し家督を相続、隆信の子政家を補佐する直茂の侍大将となり、
島原戦勝の余勢をかって、九州北部に勢力を伸ばす島津の警備に努めるうち、大友が、島津来攻に対し、豊臣秀吉に援を求めたのに対応、直茂の命で度々秀吉に謁し、抵抗する島津は、秀吉に降伏して、
バテリン追放令 1587＝27歳：秀吉の九州平定が成った。この間、秀吉の命で肥後一揆鎮圧の黒田如水から、名刀一本松を受け、
刀狩海賊取締1588＝28歳：病弱の政家が隠退、嗣子高房にも子なく、実権を掌握した直茂が国主になる。
・ ・ ・ ・ ・ 1589＝29歳：加藤清正と小西行長の天草騒動平定に、海路より支援、清正に激賞され鎧を受けるなど、
秀吉全国統一1590＝30歳：秀吉は龍造寺家の所領を鍋島直茂に知行させる。
士農工商公布1591＝31歳：竜造寺家晴に従って、大坂での秀吉の朝鮮侵攻会議に出席、戻ると、清正らと、名護屋城築城に当り、
文禄の役・ ・ ・ 1592＝32歳：直茂が、清正と共に、高麗陣の先陣となったのに従い、一番乗り。
方広寺大仏殿1593＝33歳：名護屋城が竣工し、秀吉が到着。外交・武略・築城・一揆鎮圧などに携わって、一流武将の知遇を得、

26聖人殉教・1596＝36歳：
慶長の役・ ・ ・ 1597＝37歳：直茂が、嫡子勝茂と共に、再度出陣したのに従い、藤堂高虎の水軍を救援し、蔚山城で加藤清正を救う。
高麗より陶工多数を伴って帰り、有田焼の起源となる。
豊臣秀吉没・1598＝38歳：食塩の自給自足のため、伊万里の長浜に塩田を造り製塩事業を起こす。
関ヶ原の戦・1600＝40歳：関ヶ原の戦では、直茂は、清正らの説得で、石田三成に敵対するも、勝茂が、三成の策謀で西軍側になってしまうが、やはり、東軍についていた立花宗茂が家康に抗した際、直茂が、家康に謝罪の上、宗茂を討つのに大いに貢献して、以後、徳川家康に従い、
東本願寺創建1602＝42歳：清正の熊本城築城を応援、
阿国歌舞伎始1603＝43歳：いわゆる佐賀藩の初代藩主は形式的に龍造寺高房になる。この年始まった江戸城普請、江戸市街の修理や運漕水路開きに参加、

徳川家康隠居1605＝45歳：
家康駿府退隠1607＝47歳：龍造寺政家と高房が死去、その遺領を相続し勝茂が藩主となり、鍋島の支配権が確立。
・ ・ ・ ・ ・ 1608＝48歳：佐賀藩祖とされる直茂による佐賀城の築城がはじまり、塩田築堤も起工。
この間、駿府城再建の奉行となり、名古屋城築城では、清正を助け、

山田長政渡航1611＝51歳：直茂が佐賀城を完成し、検地を始めると、城下町築造と農地開発のための水制度整備を担当、

大坂冬の陣・1614＝54歳：勝茂が、大坂冬の陣に参戦する間、塩田築堤が竣工
大坂夏の陣・1615＝55歳：大坂夏の陣にも出陣した藩主鍋島勝茂に、平和の世の到来とともに予想される入用増大に備えるため藩財政の安定と収入増大が必要と説き、領内の水損、旱損の防止と新田開発を進言して、一任され、
徳川家康没・1616＝56歳：大坂城修築工事に参加し大いに働いた後、

・ ・ ・ ・ ・ 1618＝58歳：*恩君鍋島直茂が死去。まず、嘉瀬川と多布施川の分流点に石井樋を築造して、氾濫を防いで、巨勢郷一帯7000石余の良田を造成するとともに飲料水・灌漑用水を確保するという優れた智慧を発揮し、三方潟開拓工事にも着工。以後、数々の水利・土木工事に取り組み、一転して治水工事家として才能を発揮して行く。

徳川家光將軍1623＝63歳：安良川の分水堰を設ける。
イスパニア断交・1624＝64歳：洪水の多かった千年川(筑後川)の、三根郡千栗から坂口間約3里の築堤(干栗土居)、
寛永寺創建・1625＝65歳：三方潟開拓が竣工し、1000石余の美田となる。

史料の根拠の乏しいものも含めれば、彼が行ったとされる河川改修、堤、井樋工事など枚挙にいとまがなく、兵庫町や北茂安町の地名は、彼にちなんでつけられた。

徳川秀忠没・1632＝72歳：

鎖国令Ⅱ・ ・ ・ 1634＝74歳：没した。